

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年8月9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491900134		
法人名	特定非営利活動法人 元気むらさくぎ		
事業所名	グループホームさくぎ		
所在地	三次市作木町下作木739番地1 (電話) 0824-55-3326		
自己評価作成日	平成29年6月16日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3491900134-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年7月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用される皆様が馴染みの方たちと地域の中で触れ合いながら、「共に喜び、共に笑顔を、やすらぎの中で」の理念の下、安心して安全な生活が送れるよう支援していきます。ご家族とはコミュニケーションを密に図って、訪問しやすく相談しやすい関係作り、地域の方には散歩の途中など見かけたときには必ず挨拶をすることや事業所の行事に招待するなどして、日頃から気軽に訪問しやすい関係作りに努めています。開設して7年になりますが、地域の方も歳をとり、来られる方も限られてきています。今後も利用者一人ひとりに応じたアクティビティを実施し出来るだけ自立した、又張り合いや楽しみのある生活が送れる施設を目指して頑張っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

三次市の指定管理施設である。事業所の理念の下、利用者の安心で安全に生活が送れることをモットーに、ゆったりした中で利用者の気持ちを大事に個々の行動を理解すること、利用者の尊厳を尊重することを重視した熱意のある取り組みが実践されている。利用者個々の今大事にしていることによく配慮したケアがなされており、利用者の表情や落ち着いた様子がその成果として伺える。地域との交流では小学校や中学校との恒常的な繋がりが確立されており、地域との繋がりに住民の理解も得られている。昨年度より地域包括支援センターと共同にて「認知症カフェ」も開催し、高齢化が深刻になっていく現状地域を踏まえ、地域住民との交流や地域づくりの拠点となるような取り組みも実践されている。事業所からも常会の地域住民に積極的に声を掛け忘年会やクリスマス会等に招待したりと相互交流が行われている。山間の田園風景が広がるのどかな土地柄でのんびりとした雰囲気の中散歩を行い、道端で会う地域住民との挨拶や何気ない会話、帰りに庭の畑で収穫して戻り食事の献立としたりと「やすらぎの中で」豊かに過ごす日常がある。食事も三食ともに手作りであり、利用者も皮むきやテーブル拭きなど出来ること、その方自身が出来る役割を意識したものになっている。

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は常時事務所内に掲げている。一昨年は職員会議を毎月開催出来ていなかったが、毎月職員会議を開催し理念の確認をしている。共有、実践は出来ていると思う。	理念は事業所事務所内の見やすい場所に掲示されており、日々職員が確認できるようにしている。又、職員へ個々に理念を配布したり、毎月の職員会議にて唱和も行う等理念の確認の機会を随時設けており、共有・実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	地域の方が定期的に玄関の花を届けに来られたり、隣の中学校の運動会や学習発表会の時に案内を頂いたりしている。地域の交流が確立している。	小学校の文化センターで神楽やコンサートに招待され、中学校の運動会や学習発表会にも毎年見学をされたりと恒常的なつながりが確立されており、地域包括支援センターと共同にて認知症カフェも開催し地域住民との交流が図られている。事業所からも常会の地域住民に積極的に声を掛け忘年会やクリスマス会などにも招待したりと相互交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の施設である事は、十分に認識いただいていると思う。昨年は地域包括支援センターの主催で認知症カフェを2回開催した。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	行政、地域包括支援センター、特別養護老人ホーム、民生委員協議会、自治連、家族代表の参加を得て定期的に開催しており、会議で出された意見を活かすようにしている。	運営推進会議は家族代表・三次市役所作木支所・民生委員協議会・三次市地域包括支援センター・自治連合会・特別養護老人ホーム園長・天楽庵代表者が参加し定期的に開催されている。事業所の現況や活動の細かな報告がなされ利用者への緊急対応の理解・共有や、天楽庵の事業所が分かり易い様に看板設置が協議されたり参加者相互の意見・情報交換が活発に行われている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	当事業所は市の指定管理施設であり、市の担当者とは事あるごとに連携をとって助言、指導を仰いでいる。	事業所は市の指定管理施設であり、事業所の設備や介護保険運営上の事案や事務報告、介護上の対応について等ことあるごとに市の担当者と相談や連携を図っている。運営推進会議にも参加し意見交換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	退去された利用者に転落防止で家族の同意を得て最低限のベッド柵をしていたが、現在の利用者の方に拘束を必要とする方がおられず、落ち着いている。	「身体拘束排除マニュアル」を策定し取り組まれており、ベッド転落の危険性が高い方へも柵を安易に考えずにマットやセンサーなどの活用や見守り回数・時間を増やす等利用者の尊厳を尊重することを重視した熱意のある取り組みが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の方の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員会議や日々の介護の中で、声のかけ方等にも気を付けるようにしている。利用者の方の僅かな内出血等も必ず介護記録に記載し、管理者にも口頭で報告している。管理者は必ず確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人制度を利用しておられる利用者の方がいたので、身近な制度として理解出来ていると思うが、新しく入った職員もおり、学ぶ機会が必要だと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には家族に十分説明を行っている。又、改定時には、改定前と改定後が理解できるよう文書を作成して、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置、面会時等に職員間で情報を共有し家族と意見交換をしている。	利用者の意見や要望は日々の職員との会話を通じて把握がなされており、家族へも変化等ある時は迅速な連絡を行い、面会時や年末の「家族の集い」・運営推進会議等で積極的に聞くことに努められている。「家族の集い」では年間の行事や日々の写真を掲示し、家族からも好評を得ている。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全職員が参加する職員会議を開催し、職員の意見や提案を聞いている。利用者の方のベッドの位置などを変更したりしている。	代表も事業所へ来所する機会も多く設けており、管理者も日常的にシフトに入り情報を共有すると共に、日頃から職員と話ができる身近な関係性作りができており、意見を伝え易く取り組んでいる。朝夕の申し送りや毎月の職員会議において職員から意見を聞いて集約している。若い職員からも意見が言い易くベッドの位置の変更等日常での気付きも常に取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は法人の理事でもある事から、各職員の実績や勤務状況を把握しており、非常勤職員から正規職員への転換など、やりがいや働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得の為の勤務変更や、費用の全額負担等の支援を行っている。又、全職員に順次認知症介護実践研修を受講させ、資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市が主催で、地域密着型サービス事業所連絡会議があり、情報交換をした。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所相談や申し込み、見学に来られた際に本人様の思い等を、本人が話しやすいようにゆっくり大きな声で話しかけてお聞きしている。		

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入所相談や申し込み、見学に来られた際に、本人様がどのような状態なのか等、出来れば本人様には他の場所でお茶を飲んだりしている間に、話しやすい環境を作りながらお聞きしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談に来られ、お話を伺った段階で当事業者以外のサービスが必要と判断した時は、助言を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>家庭での生活と同様に過ごしていただくと考え、自分で出来る事は自分でして頂くようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>随時の電話での報告や面会時に近況報告をし、情報交換を行い、共に本人を支える関係が築けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>面会に来られればコーヒー等の飲み物を必ずお出しして、居室でゆっくり過ごして頂いている。中学校の学習発表会を見に行き、知り合いとの交流を図っている。</p>	<p>利用者の家族は元より近所の方が訪れることも多くある。中学校の学習発表会等では地域から見学に来られる地元の知人との出会う機会にもなっており、疎遠になりがちな馴染みの付き合いを継続に努めている。利用者の希望から年賀状を家族や近所に送ったり、元々のかかりつけ医への通院も勧める等関係性が継続できる支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が利用者さんの間に入って話を進めたり、出来るだけ全員で同じテーブルで同じ話題で話ができるように、係っている。又、気の合わない利用者さん同士は、同じテーブルで食事をしないような配慮も行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所時には、関係者に情報提供を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや意向の把握が困難なこともあるが、日々の会話や聞き取りにより、出来るだけ把握出来るよう努めている。	職員は利用者の気持ちを大事にしながら個々の行動を理解するように努めている。日々のケアから食べたい物を聞き食事に提供したり、男性利用者のビールが飲みたい希望にも曜日を決め提供したりと意向や思いを大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接時や契約時、又は、入居後に本人や家族からしっかりと聞き取り（アセスメント）を行い、ケアプランに反映するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントや日々の生活の中で、現状を把握するように努めている。アクティビティも、本人の状況に合ったことを提案し、実行して頂き、記録に残している。		

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>担当者会議での家族の要望や、担当職員の意見（出席できない時は文章で）、又職員会議での他の職員からの意見を基に介護計画を作成するようにしている。</p>	<p>管理者・計画作成担当者が日々の業務において職員とも密に話を交わし、全職員で日々の関わりから考えていき本人の意向や思い、個々に目を向けた計画を作成されている。計画作成担当者中心に担当者会議でも本人ならびに家族への意向もしっかり確認し作成されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、個別の介護記録にその日の状況を記入し、又勤務帯毎に申し送りを行い情報の共有に努めている。職員から介護計画の見直しの提案があれば、参加できる職員で協議している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>出来る範囲のニーズに対応している。受診対応は原則町内としているが、家族が希望されれば、旧市内でも対応している。その場合、職員配置を増やすなどの対応も行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアが生けた、玄関の生け花を見て喜ばれたり、地元老人会等のボランティア訪問により、日常ではない関わりを持っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>原則2週間に一度、主治医の往診があるが、その他にも主治医の指示や本人や家族の希望又は管理者が必要と判断した場合は、受診の支援を行っている。</p>	<p>利用開始前の主治医の受診も可能であることをしっかりと説明し、事業所の協力医との連携も踏まえ選んでもらい医療支援をしている。協力医より2週間に1度の往診や本人・家族より希望や体調不良時等は随時受診支援を行っている。受診情報も記録ファイルに整理され、職員間でも確認・共有がされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	かかりつけ医院の看護師とは、何かあれば直ぐに電話連絡するか訪院して、担当看護師や医療ソーシャルワーカーから情報提供をしてもらっている。そのためにも医療ソーシャルワーカー等との関係作りに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者かケアマネが同行して情報提供を行っている。又、退院時にも状況把握の為訪院して、担当看護師や医療ソーシャルワーカーから情報提供をもらっている。そのためにも医療ソーシャルワーカー等との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合も、医療行為が伴わない限り対応しているが、終末期の対応は、看護職員もいないことから困難である。	看護師の配置がないこともあり看取りは行っておらず、重度化した際には本人・家族・医師と話し合い、医療行為が必要でない限りは可能な範囲で適切な支援を行うこととしており、その旨も利用開始時に事業所としての基本的な方針を説明し了承を得ている。重度化や医療行為が伴う形では医療機関との連携に努め、転院などの支援も行っている。	協力医の在宅医が変わり、在宅医療に力を入れていることで看取りを勧められたこともあり、利用者の尊厳や思いを叶えられる看取り体形を検討していくこともこれからの重要な事案である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のバイタルチェックや意識レベルの確認、顔色、表情の確認など、行うべきことを管理者が指示し、現在は実践出来ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に火災、避難訓練を行い、利用者の人命第一の方法を職員全員に徹底している。常会の方には常に協力をお願いし、地元の方面隊にも訓練に参加頂いて避難経路の確認をして頂いている。2階の入居者にも声を掛け一緒に避難訓練をした。	避難訓練では毎回夜間を想定し発火元が様々な場所で生じることを踏まえ、発火場所を都度変更した対応ができるよう訓練を行い回数を重ねている。年2回の訓練の内1回は消防署の立会いの元、指導や助言を受け行っている。地域の消防団からも参加があったりと地域との協力体制も作られている。	今後も更なる訓練の取り組みや、日常・常備食の完備、利用者のケースや状況など様々なシチュエーションを想定した訓練を利用者と一緒に行えることで災害に対する対策を深めていけるものに期待したい。

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩としての対応を心掛けるように気を付けているが、雰囲気によっては敬語ではなく親しみやすい言葉で話すこともある。	清拭の時はタオルをきちんとかけ羞恥心に配慮することや訪室時やトイレのノックは必ずといった基本的な部分を職員間で徹底し取り組まれており、声掛けにも本人を尊重することを職員一人一人が思いをもち行なっている。職員全体で日々のケアからの気付きなど話をあげ共有させ職員全員に浸透させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声掛けして本人の思いや希望を聴きだすようにしているが、なかなか自己決定は難しいこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	往診や日課の体操など、決まったこと以外は出来るだけ自由に過ごして頂くよう支援している。居室でテレビを観たり、横になったりされている。一日に何度も自由に、居室とリビングの往復をされる方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で衣服が選べる人は、自分でダンスから出して着ていただいている。着る順番がちがっていたりしたら介助している。男性入居者の髭剃りを介助している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者とのティータイムの会話の中で食材のカタログなどを見ながら、何が食べたいか希望を聞いて、メニューに取り入れている。又誕生日には、事前に希望を聞いて提供している。昼食・夕食時のおしぼりの準備をして頂いている。	コーヒーやゼリーなど好きなものや食べやすいものを提供したり、干し柿は皮をむいでもらったり、ひなまつりでは稲荷寿司を作ったりと季節において楽しみや役割が持てる取り組みが実践されている。事業所の菜園でできたものを散歩帰りに収穫し食事にしたりもしている。朝昼夕と三食ともに手作りで行き、利用者も手伝いで行う部分があり楽しみとなっている。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者ごとに食事量は加減している。お粥、刻み食、トロミをつける等、その人の状態に応じた食事形態のものを提供している。水分量も摂取量を記録し、こまめに摂るよう支援している。栄養士にお願いし、一日の食事のカロリー計算をしてもらった。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後必ず居室に誘導して、自立の方には声掛け、介助の必要な方にはその方に適した介助方法で支援している。義歯の方は、毎晩洗浄液に浸けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員会議などの話し合い、又担当職員からの起案により、出来るだけオムツにならないように実践している。排泄記録により排泄パターンを把握して、定期的にトイレ誘導している。	利用者ごとに排泄の記録をしっかりと記入し、個人の状態による誘導の実践されており個別に対応をしっかりとみている。職員からの起案からできるだけトイレで排泄してもらうようにポータブルトイレにて腹圧をかけて排泄を促す等自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便表を記録している。排便のない時は、3日毎に排便があるようにコントロールを行っている。水分摂取にも努めている。腹がしわいと口癖の利用者の方には歩行をしてもらい内蔵の動きがあるように声掛けをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	2回/週は入浴して頂くようにしているが、入浴前にバイタル測定をしその日の体調を考慮して、次の日にするなど柔軟に対応している。又、週に3回入浴を希望される方にも対応している。	立位が難しくなっても可能な限り浴槽にしっかりと浸かれるように介助技術の共有等取り組まれている。入浴がおっくうな方も湯船に浸かりほっとしてやすらぎを感じてもらえる取り組みがなされている。利用者の体調や入浴習慣、往診の日等希望や状況に応じて同性介助も行う等柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	希望者には、午睡をして頂いている。又、就寝時には、冬季であれば事前に電気毛布やエアコンなどのスイッチを入れて、暖かくして気持ちよく入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者の薬情報を一つのファイルにまとめ、職員がいつでも見れるようにしている。又、往診・受診時の医師の指示等も申し送りノートで、職員全員が情報を共有しており、何か変化があれば、直ぐに管理者に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎日、洗濯物を干す、畳む、モップ拭き等、利用者に出来ることをして頂いており、「助かりました」「有難うございます」等と言うと「役に立って嬉しい。又言ってください」と言われたり、毎日の散歩等で、張り合いや楽しみを感じていただいていると思う。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や施設周りの外出は希望に沿って対応している。隣にある中学校の運動会や学習発表会の神楽も、希望されれば支援している。又、年に数回、花見、外食、紅葉狩りには全員で外出している。	日頃から天気の良い日には一人ひとりに散歩の声を掛け施設周りや畑に寄って収穫して帰り調理に活かしたりと習慣で行っている。紅葉狩りや花見などの行事や地域行事にも普段行けないような非日常を楽しまれており、家族との協力で墓参りに行って自宅に帰宅したりと本人の希望もできるだけ支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知症の施設ということで、利用者さんにお金を所持して頂く事は困難であり、家族と相談の上利用者の方には、管理して頂いていない。去年は道の駅に外出した時、職員の見守りで買い物をして頂いた。		

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	何人かの利用者の方に家族の方へ年賀状を書いてもらい、宛名を職員が書き年賀状を出した。又、利用者の方からの希望による電話の訴えはない為、支援を行ってはいないが、宅急便などが届いた時は、職員が相手に電話し、本人と話して頂くよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングやトイレ等の共有部分、及び各居室は毎日清掃を行っている。又、リビングには雛飾りや鯉のぼりを飾ったり、散歩の途中で取った花を飾って季節感を取り入れている。ボランティアの方による季節の生け花がある。	リビングは高い吹き抜けで広く開放的な空間となっており、窓からの景観も田園や山間の緑が映え、落ち着けるくつろぎ癒される環境である。玄関にはボランティアにより季節の花が活けられ、リビングやトイレ、各居室は掃除がしっかりとなされ清潔な居心地の良い空間となっている。リビングでは利用者が洗濯物をたたむ手伝いをしたりと「生活の場」ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	全員で同じテーブルで話をしたり、歌を歌って過ごしたり、テレビを観たい人はソファで観るなど、自由に過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	備え付けの整理ダンスとベッド以外は、自宅で使用していたものを持ってきていただいている。家族の写真を飾ったりテレビを持って来られたりして居心地の良い環境作りに努めている。	基本設備としてベッドと整理ダンスが設置されているが、他は利用者の日用品が持ち込まれている。家族の写真や利用者が作られた作品やを部屋に飾ったり、高さのある枕等好みのものを持ち込まれたり居心地良く過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室やトイレの場所が分かりやすいように、名前やマークを貼り付けている。又夜間、トイレの場所が理解できない人が、自力で行けるよう、ドアを開放して自立を促している。		

V アウトカム項目() ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム さくぎ

作成日 平成29年9月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	看護師の配置がない事もあり看取りをしていない。利用者の家族にも入所時に看取りができない事を説明している。	当該施設で看取りができないか検討する。	作木診療所や江水園の方と看取りをするうえで問題となる点等を検討し、職員の意見もふまえて実施できるかどうか検討する。	1年
2	35	年2回の避難訓練で夜間の火災を想定して行っている。災害時の日常・常備食を完備していない。	夜間の避難訓練だけでなく土砂災害等の避難を想定しての訓練をする。日常・常備食の完備をする。	避難訓練で、1回は夜間の避難訓練をし、もう1回は土砂崩れ等を想定して避難訓練をする。日常・常備食を完備する。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。